

模試と同傾向の出題 ～ベネッセ・駿台模試より～

国語	第1回ベネッセ・駿台マーク模試・第1問 問6 (ii)
センター試験・第1問 問6 (ii)	第1回ベネッセ・駿台マーク模試・第1問 問6 (ii)
<p>(ii) この文章の構成に関する説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 解答番号は 11。</p> <p>① 第1段落～第4段落に示された全体の骨子について、第5段落～第10段落と、第11段落～第20段落との二つの部分が、それぞれの観点から具体的に説明するという構成になっている。</p> <p>② 第1段落～第2段落が前置き部分に相当し、第3段落～第16段落が中心部分となり、それに対して、第17段落～第20段落が補足部分という構成になっている。</p> <p>③ 第1段落～第10段落と、第11段落～第20段落という、大きく二つの部分に分けられ、同一の話題に対して、前半が概略的な説明部分、後半が詳細な説明部分という構成になっている。</p> <p>④ 第1段落～第2段落、第3段落～第11段落、第12段落～第19段落、そして第20段落という四つの部分が、起承転結という関係で結び付く構成になっている。</p>	<p>(ii) この文章は、空白行によって三つの部分に分けられているが、その全体の構成のとらえ方として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 解答番号は 11。</p> <p>① この文章は、最初の部分では筆者の意見とは異なる立場の人たちの考えを説明し、中間の部分では話題となっている当事者の言葉を紹介し、最後の部分では筆者自身の意見を述べるという構成をとっている。</p> <p>② この文章は、最初の部分では筆者自身の直観的な洞察を提示し、中間の部分では他者の視点を通じてその考えを相対化し、最後の部分では両者の意見を併記したうえで読者に判断を任せるという構成をとっている。</p> <p>③ この文章は、最初の部分で体験を通して述べられた筆者の考察を、中間の部分で引用を交えつつ論として掘り下げ、最後の部分で再び筆者の体験を叙述し実感に即して考えを深めるという構成をとっている。</p> <p>④ この文章は、最初の部分で例を挙げながら筆者が主張した考えについて、中間の部分で資料に基づき実証的に裏づけし、最後の部分で感覚に訴える比喩を用いてさらにわかりやすく説明するという構成をとっている。</p>

今回のセンター試験の第1問評論・問6 (ii) では、文章全体の構成を問う出題があった。これまで、問題文の具体的な内容に触れた選択肢による出題が多くなされてきたが、今年は具体的な内容に踏み込まず、論の枠組みを抽象的に記述する形をとって出題されている。

第1回ベネッセ・駿台マーク模試の第1問評論・問6 (ii) でも、文章全体の構成を問う設問を出題している。この設問は、問題文の内容や展開を一段階抽象化した形でとらえ直すことができるかどうかを試しており、センター試験で求められた力と類似している。

いずれの設問も、問題文を、論の構成・展開を意識しながら読み進め、かつ、問題文中の表現をまとめ直す力が求められる出題であった。